



平成30年7月豪雨災害 ボランティア・NPO 活動サポート募金（ボラサポ・豪雨災害）  
第3回助成決定にあたって

## はじめに

6月28日から7月8日にかけて、西日本を中心として広い地域が集中豪雨に襲われ、河川の氾濫や洪水、土砂災害など、人的被害を伴う甚大な被害が生じました。

この豪雨災害により亡くなられた方々に心よりお悔み申し上げます。また被害を受けられた方々には謹んでお見舞い申し上げます。被災された方々と被災地域の復旧を心よりお祈り申し上げます。

被災した12府県60市町村では、災害ボランティアセンターが開設され、ボランティアグループやNPO等による、救援・復旧・復興のための支援活動が行われました。9か月経過した現在でも被害の大きかった岡山県、広島県、愛媛県を中心に支援を必要としており、ボランティアによる支援活動が続いている地域があります。

この状況を受け、中央共同募金会では、平成30年7月豪雨災害 ボランティア・NPO 活動サポート募金（以下、ボラサポ・豪雨災害）の第3回助成応募受付を開始し、各地でボランティア活動を行うボランティアグループやNPO等を資金面で支援し、被災地と被災者を支える活動に助成を実施することとしました。

3月26日、ボラサポ・豪雨災害の第3回目の助成先を決める運営・審査委員会（以下委員会）を開催し、37件、合計6,156万円の助成を決定いたしました。

被災地では復興に向け、まだまだ課題が山積している状況ですが、本助成を活用し、被災地の問題解決の一助となることを期待しております。

また、平成30年度では7月豪雨災害だけでなく、各地で多くの被害をもたらした台風21号災害、北海道で最大震度7を観測した北海道胆振東部地震が発生しました。

これまで、ボラサポでは、特に大規模な災害において、助成を実施してきましたが、全国でさまざまな規模や形の災害が多発していることに鑑み、大規模な地震災害以外の災害や平時の防災に関する取り組みなどにも対応できるよう、しくみや体制を整えることの検討を行っています。

## 1. 第3回応募状況と助成決定状況

1月24日から開始した第3回目の助成公募では、48件、合計9,302万円の応募がありました。

今回の応募では、一番多かった活動内容はコミュニティ再生、サロン活動で、第1回、第2回で活動の中心だった被災家屋内外の片付け、清掃から変わってきており、復旧のフェーズが進むにつれ被災地のニーズが変化していることが伺えます。活動地域は、全体の応募の16%が広島県安芸郡、14.2%が岡山県真備町、ついで広島県呉市、愛媛県宇和島市と続いています。

活動団体の所在地では岡山、広島、愛媛を本拠地とする団体が全体の応募の40%を占めました。これは復興に向け、外からの支援に頼るだけでなく、自分たちで地域を復興させるという意思の

表れのように感じています。

## 2. 今後の予定について

被災地では復興にあたり、まだまだ多くの支援を必要としています。被災地では生活支援やコミュニティ支援が必要とされていく中で、地域での支え合いが根付くことを願い、ボラサポ・豪雨災害にいただいたご寄付を、被災が大きかった3県において地域住民が支え合う活動や、次の災害に備えた基盤整備の活動に助成できるよう、しくみや体制を検討し、被災地と連携し実施していく予定です。

最後となりましたが、発災直後より全国の個人・企業の皆さまより多くのご寄付をいただきました。ボラサポへご理解、ご支援をいただいた多くの方へ、深く感謝申し上げますとともに、今回、助成が決定した団体の皆さまにおかれては、寄付者の方がたから託された貴重な財源による助成であることを理解いただき、被災地の復旧・復興支援活動を通じ、被災された方々の支えとなる活動をしてくださることを期待しています。

災害ボランティア・NPO 活動サポート募金  
運営・審査委員会 委員長 山崎 美貴子